

《短 報》

改定診療報酬に基づく PET 装置導入におけるミクロ経済学

阿部 克己* 小須田 茂* 草野 正一* 永田 雅良**

要旨 FDG PET 1 検査 7,500 点は低報酬点数であり, 1 施設が PET 装置を導入し運用するには, その年間収支を予め算出しておくことはきわめて重要である. 報告された総費用に基づき, 通常運用 (1 日 8 件, 8 時間) の場合と 24 時間フル運用 (1 日 20 件) の場合を想定し, 各々の損益分岐点を算出した. その結果, 通常運用の場合は 1 サイクロトロン・FDG 合成装置一式 (以下, サイクロ), 1 カメラで 13.4 件/日, 1 サイクロ, 2 カメラで 17.7 件/日, 1 サイクロ, 3 カメラで 22.1 件/日, 24 時間運用の場合はそれぞれ, 19.9 件/日, 25.5 件/日, 31.2 件/日となった. 改定診療報酬に基づく FDG PET 検査運用にあたっては通常の稼働時間で利潤を得ることは困難と思われた. サイクロ 1 台, カメラ 3 台の PET システムをほぼ 1 日フル稼働すると, 年間利潤は約 5 億 3,000 万円に達すると見積もられた. 建設費を含む初期設備投資の損益分岐点は 2.8 年となった.

(核医学 40: 451-455, 2003)